

「不登校新聞」ウェブ版も

ウェブ版「不登校新聞」創刊記念号の画面。石井編集長(中央)らのあいさつは、動画で掲載されている



紙版は、学校に行くのを苦にしたと思われる子どもの自殺などが1997年に相次いだことを受け、翌年に創刊。2004年以降は「Funtei」と名称を変えて発行を続けてきた。当初は約6千あった部

不登校や引きこもりの現状を伝えるウェブマガジン「不登校新聞」が8月21日に創刊された。NPO法人「全国不登校新聞社」(東京都北区)が15年前から紙の新聞として発行を始めたが、より多くの人に読んでもらおうとウェブ版も作った。当事者約1100人分の声などを紹介していく。

数は約800まで減り、一時は休刊の危機に陥ったが、存続を求める声を受けて現在は約1500部まで回復。月に2回発行している。ウェブ版の発行は、紙版が減る一方、関連サイトへのアクセス件数は増えてきたことから、より利用しやすい形にしようと数年前から計画。登録してログインすれば、ウェブ版や過去の紙版368号分を読めるほか、読者同士の情報交換の場として掲示板も利用できる。不登校や引きこもりだった約1100人のインタビュー記事や手記も「当事者の声」としてデータベース化。今は親の声なども合わせて約200本を公開中で、徐

紙版部数減乗り越え 1100人の経験談など

々に増やす。時間が経つと状況も変わるため、過去のインタビューなどをデータベース化されることを心配する人もいる。だが、趣旨を丁寧に説明し、なるべく多くの人に協力してもらえるよう努力してきた。自身も不登校を経験したという編集長の石井志昂さん(31)は「親など当事者が求めているのは、自分の子どもと同じ状況を経験した人の声。それをできるだけ探しやすいようにしていきたい」と話す。創刊を8月下旬にしたのは、多くの学校で2学期が始まる9月は、子どもの自殺が増えるため。石井さんは「学校に行くか死ぬかの2択ではない。もっと他にも生きていく道がある」ということを伝えていきたい」と言う。ウェブ版も月2回の発行で、月額800円。問い合わせは、同社の東京編集局(03・59663・5526)へ。(大西史晃)